

平成30年度 小松市決算のあらまし

財政のすがたを分かりやすく

平成30年度の小松市の決算の情報をもとに、まちづくり・ひとづくりを進めるうえで「どのようにお金が使われたのか」「小松市の財政はどのような状態なのか」を分かりやすくお知らせします。

平成30年度決算の特徴

「NEXT10年ビジョン」の実現をめざし、「暮らしの充実」や「まちの発展」に向けた施策をスピードをあげて展開しました。あわせて、「健全な財政」をめざし、将来負担の軽減に努めました。

◆暮らしの充実

- ・市民生活に直結した「エコロジーパークこまつ・クリーンセンター」の始動
- ・こども予防接種の拡大など、子ども・子育て環境の向上・充実 etc.

◆まちの発展

- ・ひとづくりの拠点「公立小松大学」の開学、キャンパスの整備
- ・梯川ボートハウスなど東京オリパラの事前合宿誘致を契機としたスポーツ施設の充実 etc.

◆健全な財政

- ・市債残高については、全会計で約12億円、9年間累計で約216億円の改善
- ・平成30年度は、4億円の繰上償還を実施

もくじ

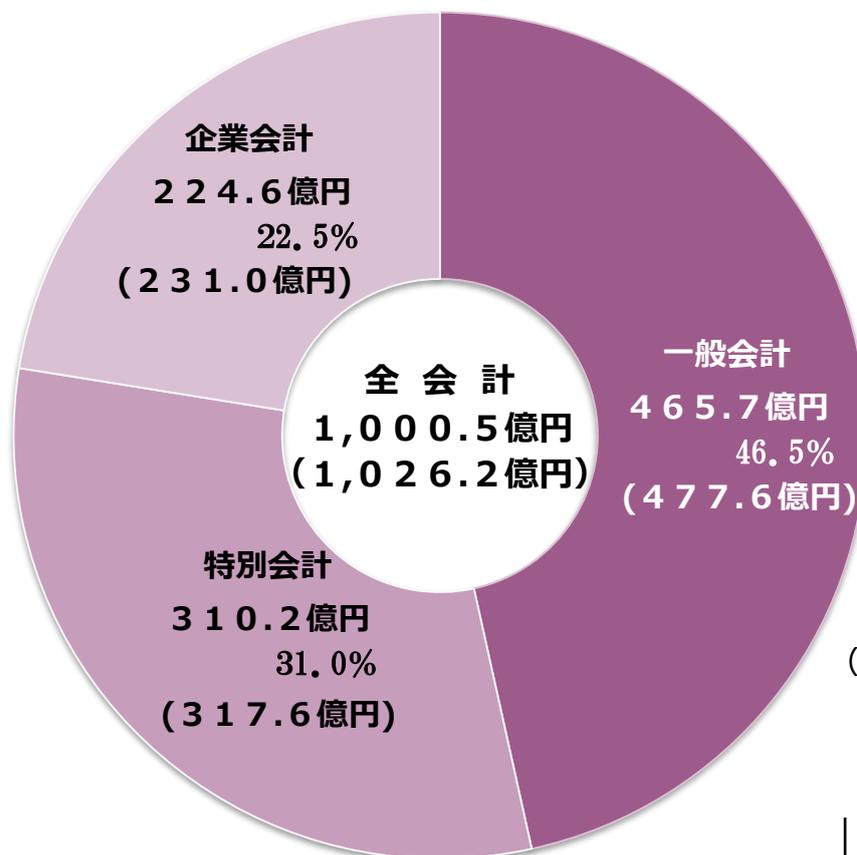
決算って何？	・・・ 1ページ
1年間でいくらお金を使ったの？	・・・ 1ページ
一般会計の内訳は？	・・・ 2ページ
何にお金を使ったの？	・・・ 3ページ
歳入(収入)の内訳は？	・・・ 3ページ
歳出(支出)の内容は？	・・・ 5ページ
歳出(支出)の目的別の使い道は？	・・・ 7ページ
特別会計・企業会計の内訳は？	・・・ 8ページ
市債(借金)はいくらあるの？	・・・ 9ページ
貯金はいくらあるの？	・・・ 9ページ
小松市の財政水準は？	・・・ 10ページ



決算って何？

1年間（4月1日から翌年の3月31日まで）に予算で決められたお金の使い道に沿って、実際にどのようにお金が使われたかを表すものです。

1年間でいくらお金を使ったの？



() 内は前年度数値



市民1人当たり
924,272円

市の会計は、仕事の目的や種類によって大きく3つに分かれています。

[一般会計] … 税金などを使って、福祉、教育、道路や公園の整備、ごみ処理など市の基本的な仕事をする会計です。

[特別会計] … 国民健康保険、介護保険などの事業は、保険料などの市税以外の特定の収入によって運営するものであり、一般会計と分けて経理した方が適当です。このような場合に設置するのが特別会計であり、小松市では**5つの特別会計**を設置しています。
(平成29年度から簡易水道を企業会計の水道に、農業集落排水を下水道へ会計を統合しました。)

[企業会計] … 水道や下水道、病院は、料金収入を主な財源として民間の企業活動に近い仕事をする事業です。このような場合に設置するのが企業会計であり、小松市では**3つの企業会計**を設置しています。

行政の仕事は広範多岐にわたるので、特定の事業の会計を分けることによって収支を明確にしています。

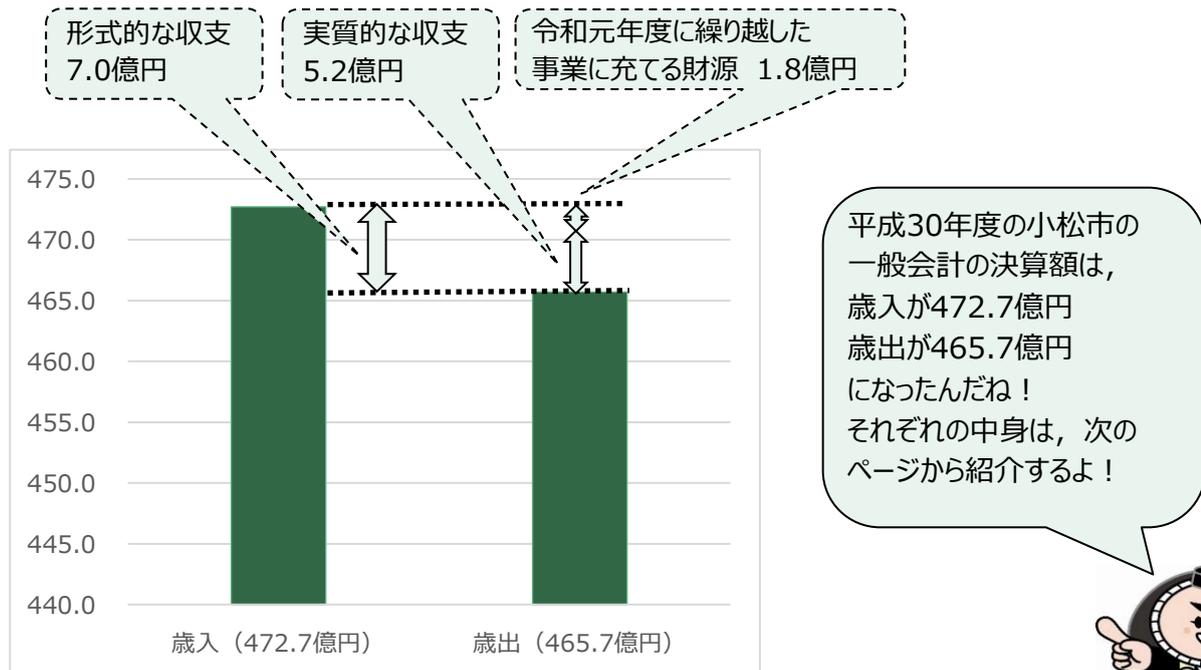
一般会計の内訳は ⇒ 2 ページへ

特別会計・企業会計の内訳は ⇒ 8 ページへ

一般会計の内訳は？

(単位：億円)

項目	金額	説明
歳入総額 A	472.7	年間の収入総額
歳出総額 B	465.7	年間の支出総額
歳入歳出差引額 C (=A-B)	7.0	形式的な収支
翌年度繰越額 D	1.8	平成30年度に繰り越した事業に充てる財源
実質収支額 E (=C-D)	5.2	実質的な収支

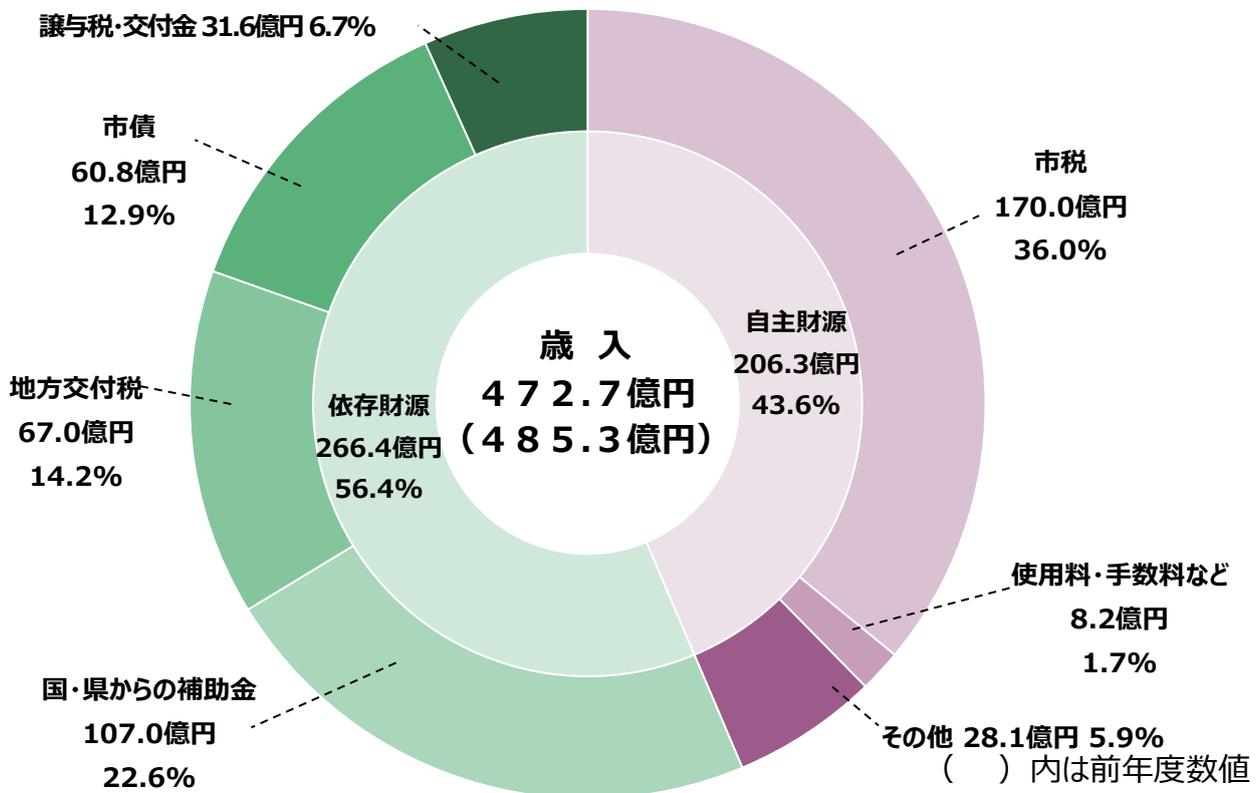


実質収支額は、5.2億円

- 歳入歳出差引額（形式的な収支） = 歳入総額 - 歳出総額
単純な歳入と歳出の差引で、7.0億円のプラスとなっています。
- 翌年度繰越額
平成30年度中に完成しなかった工事代金など翌年度へ繰り越した事業のためにとっておかなければいけなくなったお金が1.8億円あります。
- 実質収支額（実質的な収支） = 歳入歳出差引額 - 翌年度繰越額
歳入総額と歳出総額の純粋な差引きである形式的な収支から翌年度繰越額を差引いた金額のことです。平成30年度は5.2億円のプラスとなっています。
- 実質収支額の使い道
実質収支額の2分の1以上を年度間の財源の不均衡を調整するための財政調整基金へ積立て、残額を翌年度に行う事業の財源としています。

何にお金を使ったの？

歳入(収入)の内訳は？



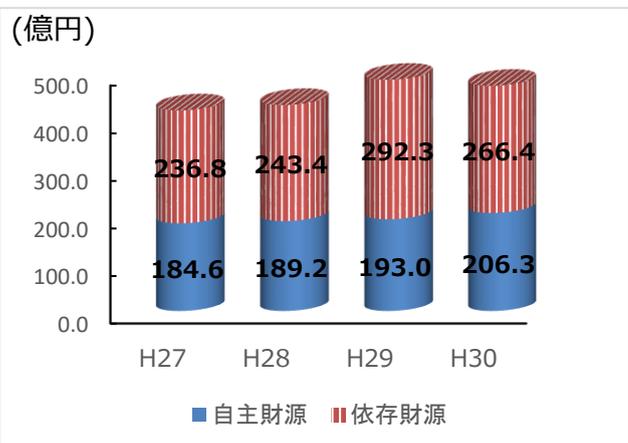
歳入の内容

平成30年度の収入の中で一番大きな割合を占めているのは皆さんが納めている市税（前年度比11.8億円増）で歳入の約36%を占めています。
 前年度と比較すると、全体として12.6億円減額しています。
 大きな理由としては、市税が11.8億円増加しましたが、エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設完了による国・県からの補助金が29.3億円減少したことなどがあげられます。

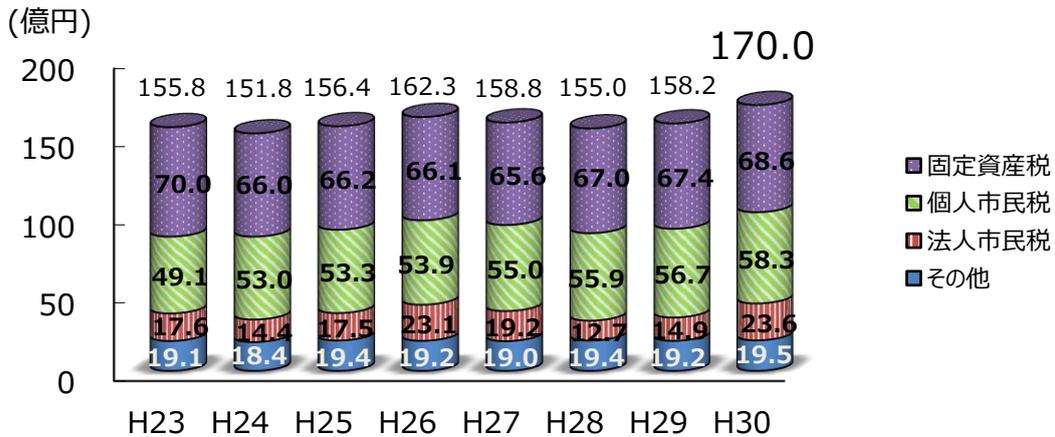
◇自主財源・依存財源とは

- 自主財源
市が自主的に集めることができる財源
市税，負担金や使用料，繰入金など
- 依存財源
国や県により決定される財源
国・県支出金，地方交付税，地方譲与税，市債など

直間比率見直しにより依存財源が増加する傾向がありますが、自主財源の確保に努めながら、様々な財源を活用し、まちの発展やくらしの充実を図っています。



市税の推移を見てみよう

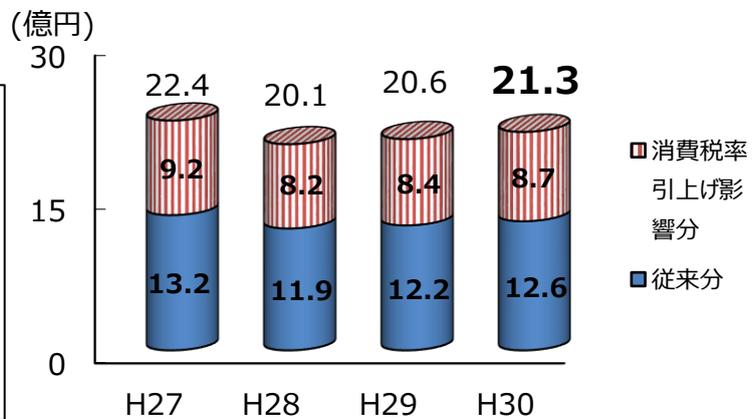


グラフは、市税の推移を示しています。平成21年度以降、リーマンショック後では150億円～160億円台を推移していました。
 平成30年度は雇用・所得環境の改善による個人住民税の増額、好調な企業業績による法人市民税の増額、住宅需要の増加等により固定資産税が増額となり、市税全体では、前年度と比べて**11.8億円増収**となりました。

◇地方消費税交付金とは



間接税である消費税のうち一部は、「地方消費税交付金」として市へ交付されます。
 平成26年4月からの消費税率引上げ影響分は、下記のように社会保障の充実・安定化に向けた取組みに使うこととされ、交付金が増額されています。

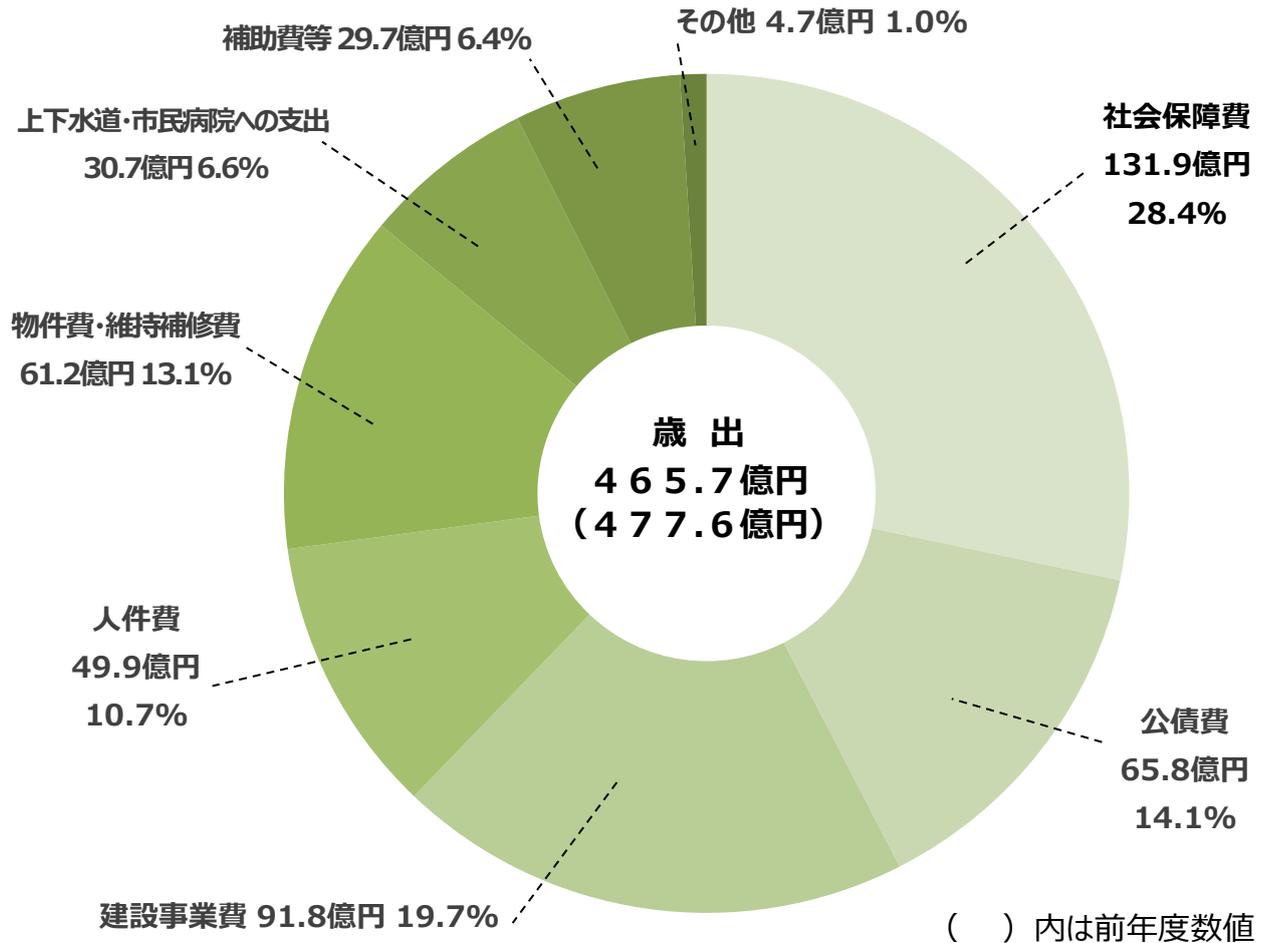


地方消費税交付金の使途の内訳について

(単位：億円)

対象経費	決算額	財源内訳				
		特定財源			一般財源	
		国県支出金	市債	その他	地方消費税交付金充当額	その他
社会福祉	106.5	61.3	2.3	1.9	4.3	36.7
社会保険	33.4	6.6	0.0	0.0	2.8	24.0
保健衛生	17.4	1.8	0.0	0.8	1.6	13.2
合計	157.3	69.7	2.3	2.7	8.7	73.9

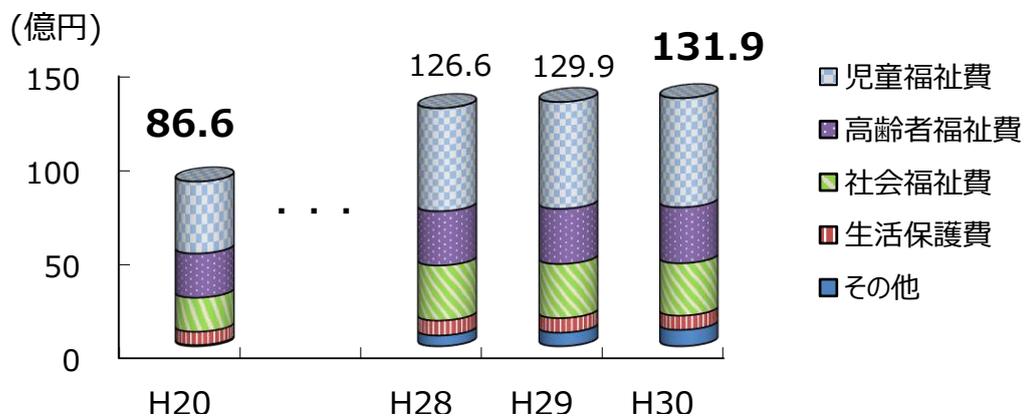
歳出(支出)の内容は？



性質別では、子育て・医療・介護などの「社会保障費」に約28%のお金が使われているよ！

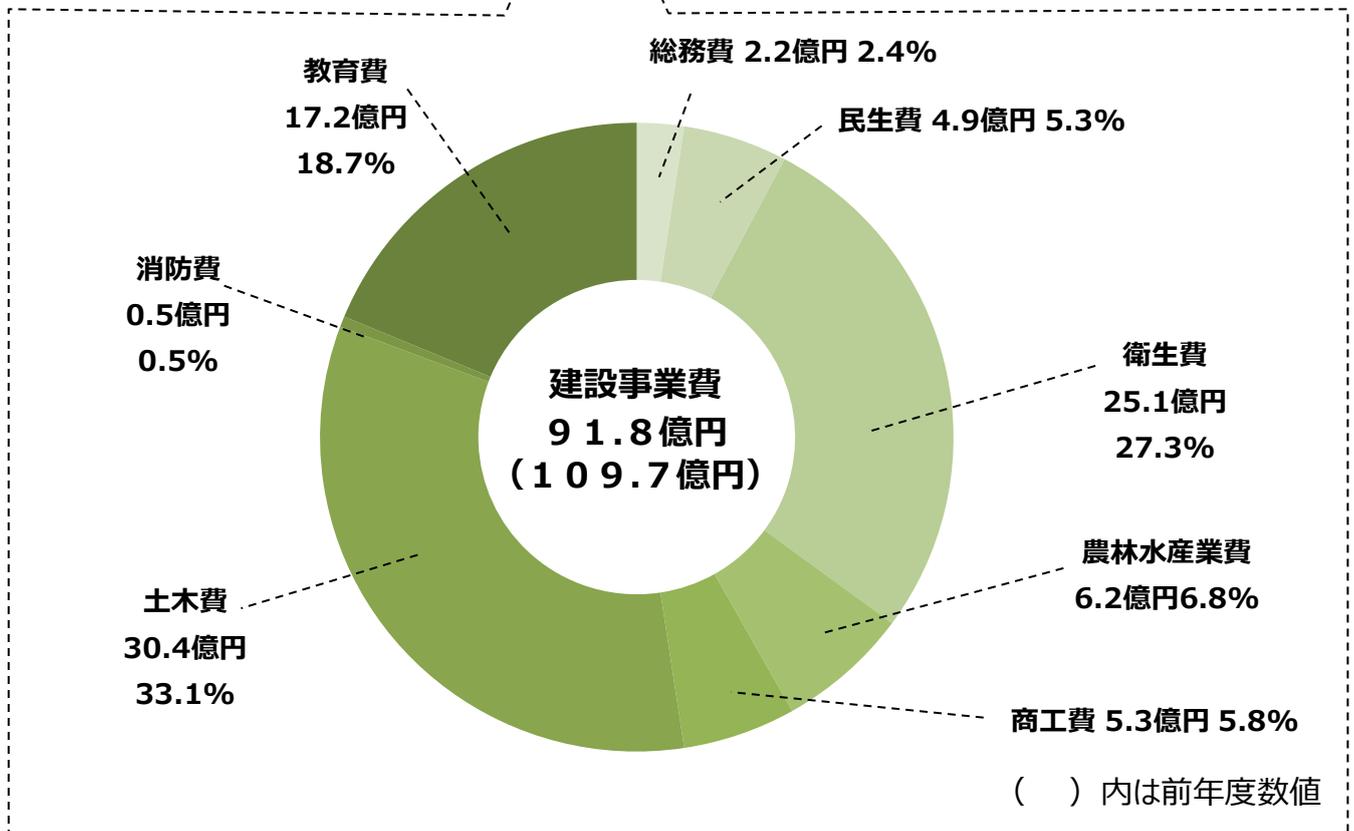
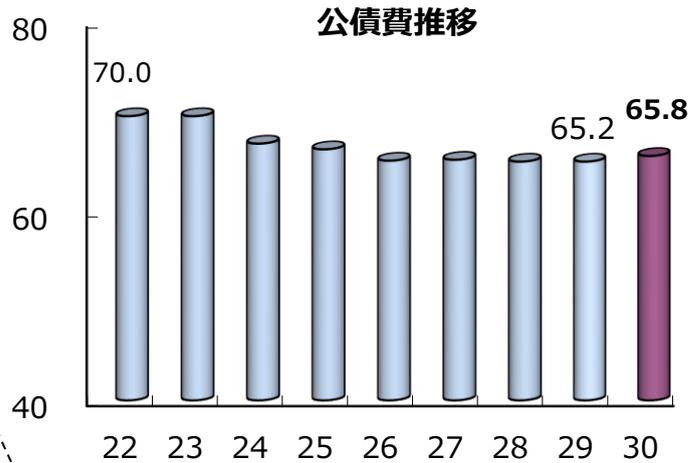
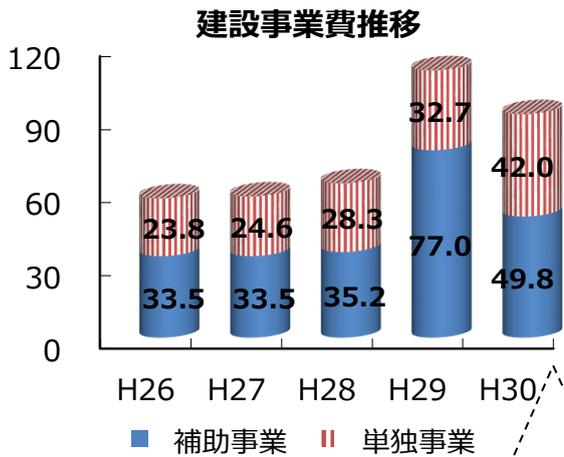


社会保障費の推移



社会保障費は、少子高齢社会が進む中、年々増加しており、10年前と比べて約1.5倍に、前年度と比べて**2.0億円増加**しています。
認定こども園の充実、保育士の処遇改善などを図りました。

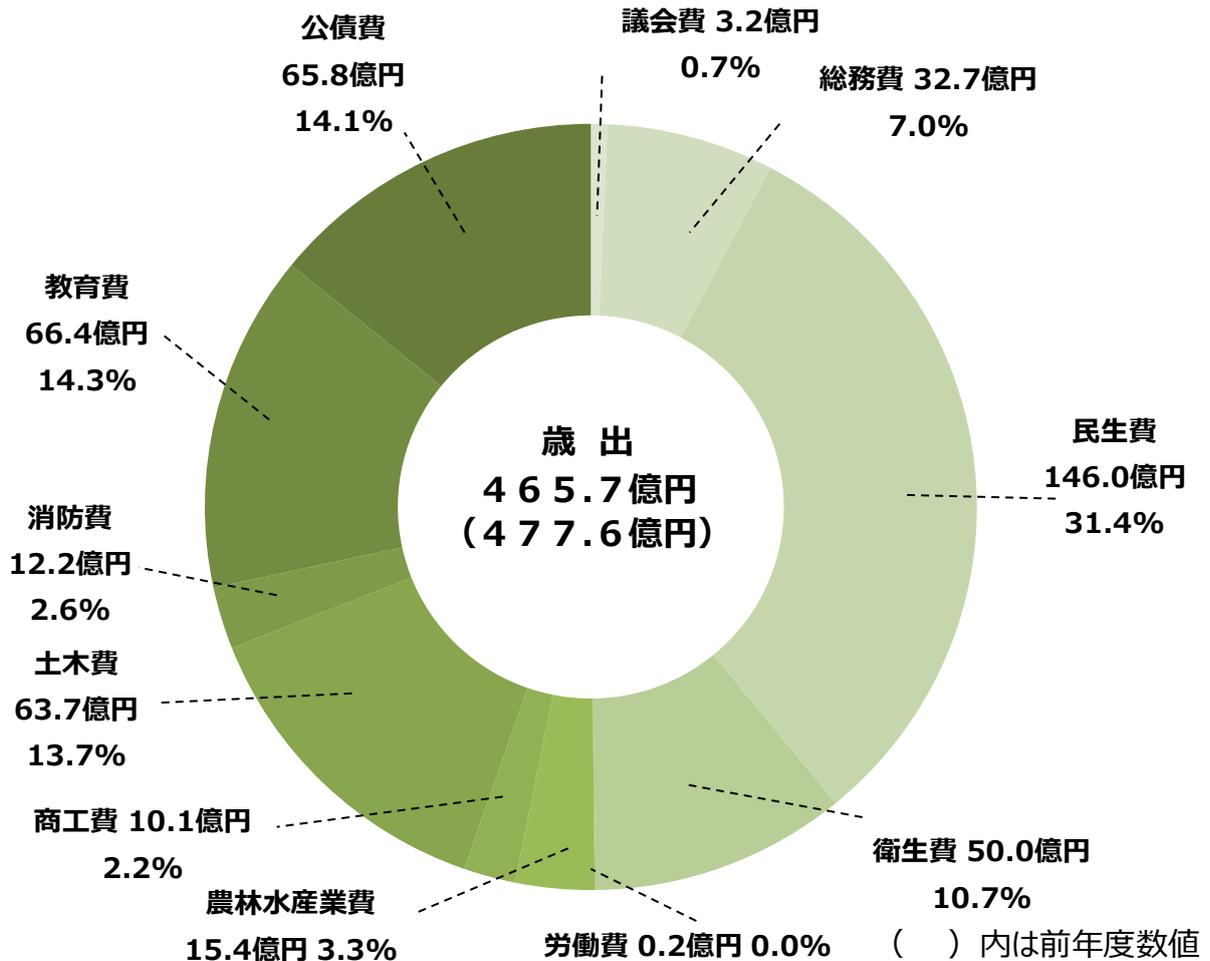
建設事業費は増加，公債費は減少傾向



平成30年度の建設事業費の目的別の内訳は，上のグラフのとおりとなっています。
 特徴としては，市民生活に直結した「エコロジープークこまつ・クリーンセンター」建設（衛生費）が前年度からは減少したことなどにより，前年度と比べて**17.9億円減少**しました。また，公立小松大学の施設整備や親水スポーツ公園など教育，スポーツ施設を充実しました。

公債費（建設事業等施工のため借入した借金の返済）は，平成22年度の70.0億円をピークに減少傾向となっており，平成30年度は4.0億円の繰上償還を含め**65.8億円**となっています。
 今後も市債（借金）の発行を抑制しつつ，まちの発展・くらしの充実に取り組みます。

歳出(支出)の目的別の使い道は？



目的別では、福祉にかかる経費である「民生費」に一番多くのお金が使われているね！



目的別の主な支出の内容

- 議会費・・・議会の運営
- 総務費・・・市政の運営，税金や戸籍の事務など
- 民生費・・・医療や介護，子どもや障がいのある方，お年寄りへの福祉サービスなど
- 衛生費・・・母と子やお年寄りの保健の充実，ごみ処理など生活環境の整備
- 労働費・・・働く人への支援
- 農林水産業費・・・農林水産業，中山間地域の振興
- 商工費・・・商工業振興，産業の育成・誘致 など
- 土木費・・・道路・公園・住宅などの管理・整備
- 消防費・・・消防の活動，防災整備
- 教育費・・・学校教育・生涯学習・文化振興 など

特別会計・企業会計の内訳は？

特別会計（5会計）

（単位：億円）

会計名	収入	支出	差引	事業内容
国民健康保険	107.3	106.0	1.3	自営業者や退職者などの医療保険
介護保険	98.3	95.6	2.7	施設介護，在宅介護等の保険
後期高齢者医療	15.0	14.6	0.4	広域連合による75歳以上の医療保険
産業団地	2.3	2.3	-	産業団地の造成
公債管理	91.7	91.7	-	借金の返済管理
合計	314.6	310.2	4.4	

企業会計（3会計）

（単位：億円）

会計名	収益的収支			資本的収支		
	収入	支出	差引	収入	支出	差引
水道	27.2	21.6	5.6	1.5	12.2	▲ 10.7
下水道	42.0	41.2	0.8	35.7	53.0	▲ 17.3
市民病院	84.3	83.5	0.8	8.0	13.1	▲ 5.1
合計	153.5	146.3	7.2	45.2	78.3	▲ 33.1



企業会計のしくみ

企業会計には2つの財布があります。

【収益的収支】 … 事業を運営するために1年間にかかった経費と収入を管理する財布。事業の黒字・赤字はこの財布の中身を見れば分かります。

【資本的収支】 … 事業の運営とは別に，施設の建設や設備投資の収支をやりくりする財布。借金の借入・返済もこの財布で管理しています。

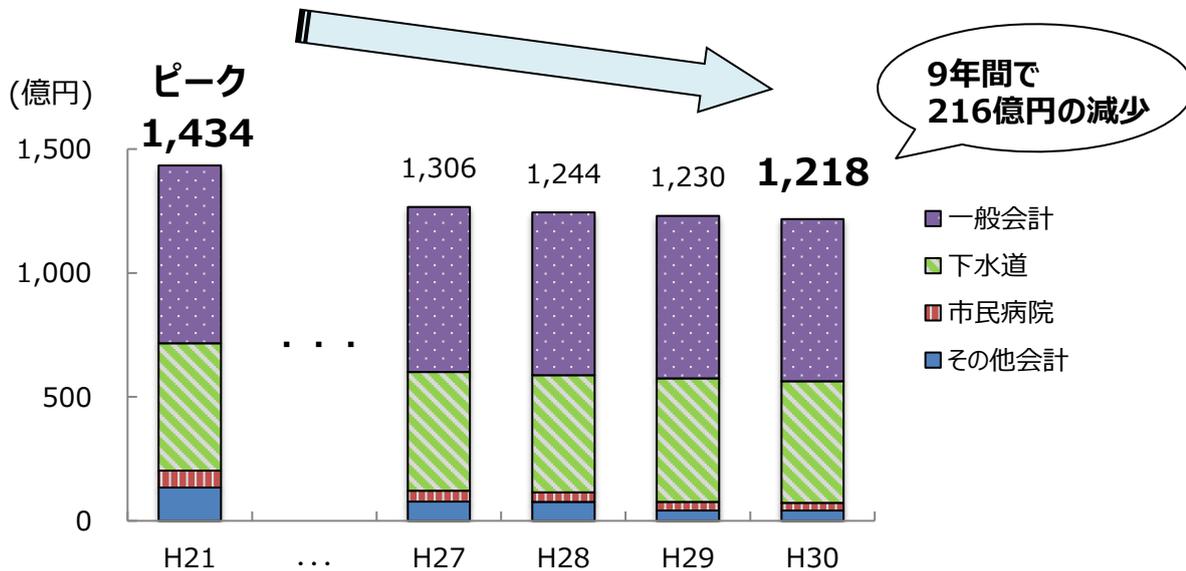
このほかに，企業会計には内部留保資金というものがあります。内部留保資金とは事業を運営して生じる純利益や現金支出の伴わない費用から生じるものです。

上の表では，資本的収支が赤字になっていますが，不足分は内部留保資金で補っています。

市債（借金）はいくらあるの？

小松市の市債（借金）の残高は、平成21年度の1,434億円をピークに借入れの抑制や繰上返済を行ったことなどにより、平成22年度以降は減少に転じています。

平成30年度は市債残高を約**12億円改善**し、全会計の残高は約1,219億円となり、10年間で200億円圧縮するという目標を前倒しで達成しています。

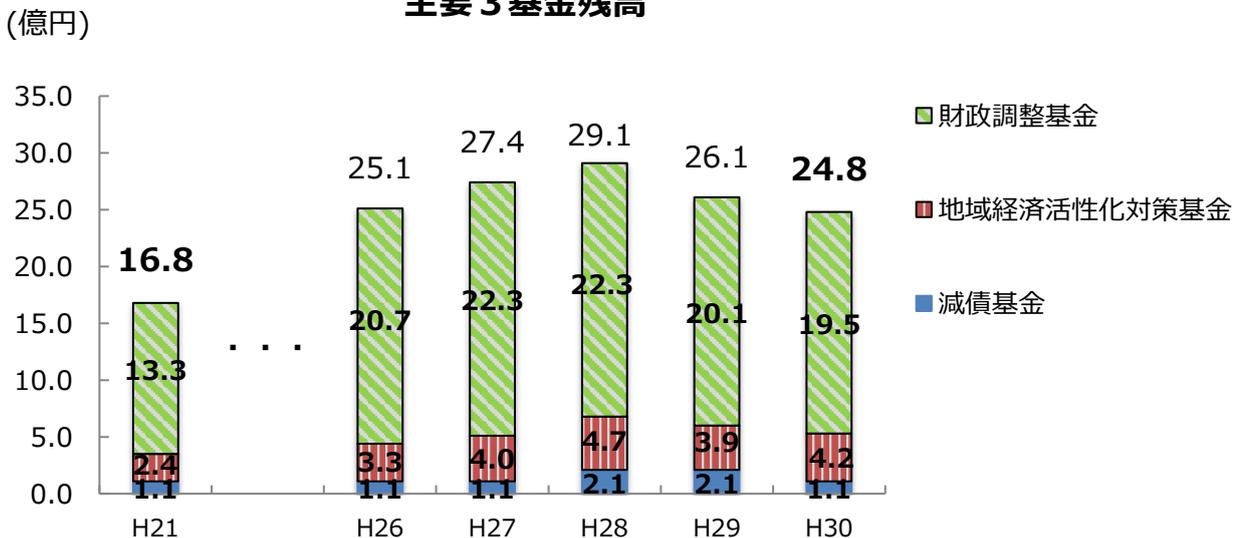


貯金はいくらあるの？

小松市の貯金（主要3基金）の残高は、平成20年秋のリーマンショックの影響による歳入不足の補填や、市債の繰上返済を優先的に行っていたため、平成23年度末まで20億円を下回っていました。平成30年度はエコロジーパークこまつ・クリーンセンター建設費等の主要事業費の財源として3.4億円、市債の繰上償還のために1.0億円取り崩しを行いました。目安としている24億円を確保し、平成21年度末比**8.0億円増**となっています。

今後も、突発的な財政需要に対応できるよう貯金を確保しつつ、将来負担軽減へ取り組みます。

主要3基金残高



小松市の財政水準は？

平成30年度の普通会計決算を全国の類似都市(29市)や県内11市と比べてみましょう。

財政力の強さ（財政力指数）

		小松市の順位
小松市	0.707	
類似29都市平均	0.797	第22位↑
県内11市平均	0.555	第3位→

※財政力指数

必要な財源をどれだけ自力で調達できるかを表す指数。数値が大きいほど財政力が強い。

収入に対する借金返済の割合（実質公債費比率）

		小松市の順位
小松市	15.6%	
類似29都市平均	5.6%	第29位→
県内11市平均	11.0%	第10位→

※実質公債費比率

収入額のうち借金の返済に使った金額の割合。数値が大きいほど借金返済の負担が重い。

財政の弾力性（経常収支比率）

		小松市の順位
小松市	91.2%	
類似29都市平均	91.3%	第14位↑
県内11市平均	93.1%	第4位↑

※経常収支比率

市税などの経常的な収入に対する経常的な経費の割合。数値が大きいほど財政の弾力性が低く、自由な政策に使えるお金が少ない。

収入に対する借金残高の割合（将来負担比率）

		小松市の順位
小松市	150.6%	
類似29都市平均	22.6%	第29位→
県内11市平均	67.0%	第11位→

※将来負担比率

収入額に対する市債などの負債残高の割合。数値が大きいほど将来支払う負債の残高が多い。

◎矢印は前年度との比較です

※類似都市とは？

小松市と同じ類型（人口が10万人以上15万人未満、産業構造が第2次産業＋第3次産業が90%以上かつ第3次産業が65%未満）の都市で、全国に29団体あります。

類似都市と比べると…

小松市は、収入に対する借金返済の割合を表す「実質公債費比率」、借金残高の割合を表す「将来負担比率」は減少傾向にありますが、類似都市や県内11市と比較して、高い水準となっています。

今後は国や県などからの補助金の活用や民間活力の導入などを図りながら、まちを発展させ、税収を確保するとともに将来負担の軽減を図ることも重要な課題です。